

平成28年度第12回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 平成29年（2017年）3月23日（木） 午後2時00分～同4時30分

(2) 開催場所 宝塚市立男女共同参画センター 学習交流室1A

(3) 出席者

・景観審議会デザイン協議部会委員

徳尾野部会長、岩井委員、三谷委員、妹背委員

・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）

下野課長、志村係長、浜崎職員、山下職員

・事業者

議事① 事業者 宝塚市長（産業文化部）

設計者 東畑設計事務所・地域計画建築研究所

・E-DESIGN 設計共同体

(4) 議 事

議事① 宝塚ガーデンフィールズ跡地利活用計画

(5) 傍聴者

議事① なし

2. 会議の要旨

事務局： 本日の審議会（部会）は、委員4名の出席がありましたので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会 長： 了解しました。審議を開始します。本日の署名委員は順番により、三谷委員と妹背委員です。

会 長： 景観審議会運営規程第3条第1項の規定に基づき、本日の議事は全て公開となっています。傍聴者があれば入室を承認しますが、傍聴者はいらっしゃいますか。

事務局： 傍聴者はいません。

☆☆☆★ 宝塚ガーデンフィールズ跡地利活用計画 ★☆☆☆

会 長： 今回の事業計画で景観上特に配慮された部分について説明してください。

事業者： ・ ガーデンフィールズの跡地に、文化芸術施設と庭園、附属施設として、

カフェ棟や売店を設置する計画です。現在は実施設計を行っています。

- ・ 計画地は、昭和初期から阪急電鉄の沿線開発と合わせ、宝塚温泉や宝塚歌劇が造られ、計画地には植物園やファミリーランド、閉園後はガーデンフィールドがありました。いずれの時代においても市内外の多くの方々が訪れる賑わいにあふれた場所でした。沢山の緑に囲まれた良好な環境で、現在は手塚治虫記念館や文化創造館などがある市の観光文化、商業の中心地域です。多くの方で賑わいにあふれ、緑に囲まれた風景を保存、継承しながら新しい魅力を付加したいと考えています。
- ・ 敷地を立体的に活用し、建物は2階建てで高さを抑え、地上から繋がる屋上庭園を設け、敷地全体が緑あふれる空間になるよう計画しています。
- ・ 北西に建物を配置し、手塚治虫記念館への圧迫を軽減し、限られた敷地の中で、中央部分により多くの庭園や広場空間を設け、できるだけゆとりのある空間になるよう工夫しました。
- ・ 建物は、緑に包まれた丘のような圧迫感のない外観を目指しています。屋内外が一体的になるよう、南側はガラス面とし、建物の中から庭園、庭園から建物の中の動きが見えるようデザインしています。
- ・ 庭園は、既存の植栽をできるだけ残し、活用する計画です。特に南東部分のメインガーデンは、ガーデンフィールド時代のまま今も維持管理していますので、その雰囲気を残したいと考えています。また、ファミリーランド時代の桜並木を残し、懐かしさがあふれるような景観にしたいと思っています。
- ・ 植物園時代からある池と温室との間の欄干はそのまま残し、土地の記憶継承を図る計画です。
- ・ 提出した資料は、平成27年度に作成した基本設計の内容を記載していますので、今後実施設計の中で変更する可能性があるものについては、別紙資料として提出させていただきました。

会 長： では、委員よりご意見やご質問があればお願いします。

委 員： 花のみちからのアプローチを大切にしていると説明がありましたが、花のみちを過ぎ阪急電車の高架をくぐり、ここへ至るまでの環境は、現況では十分だとは言えません。せっかくの機会ですので、宝塚へ初めて来た人も自然とここへ誘導されるような花のみちからの繋がりを、宝塚市としてこの計画に合わせて造っていただきたいと思います。植栽や舗装も含め、はなの道からの連続性を考慮した造りにしていただきたいと思います。

また、計画地のメインの入口は南西角だと思いますが、この部分にスロープ

が設置されており、庭園へのアクセスを阻害しています。新しいもののようにするので、再度整備するのは難しいかもしれませんが、少し時間がかかってもよいので、庭園の入口にふさわしい環境に整備してください。

設計者： ガーデンフィールズの閉園後、計画地を含む 3 ヘクタールの土地が区画整理事業により整備され、商業施設やすみれ寮などが建設されました。手塚治虫記念館前の交差点は、はなの道に近い側だけ横断歩道が無いので、区画整理事業に合わせて設置するよう何度も警察と協議を行いましたが、歌劇場前交差点付近の渋滞を解消するために設置された左折専用レーンの通行をスムーズにするため、横断歩道は設置できませんでした。当初想定していた一番確保したかった動線を確保できなかったのは、とても残念です。しかし、サクラを植える事や歩道の改修などで、花のみちとの連続性を確保するなど、歩行者を花のみちから庭園へスムーズに誘導できるような工夫を検討したいと思います。

手塚治虫記念館前のスロープは平成 27 年に竣工しました。記念館のエントランスなので、手塚プロダクションにもデザインについてアイデアをいただいで改修されました。新しい施設は、この部分が庭園全体のエントランスとなりますので、スロープが導線の邪魔になることは、基本設計の有識者会議の中でもご指摘を受けております。手塚プロダクションや、阪急電鉄とも調整しながら全体を考えて改修していく予定です。

会 長： 是非そうしてください。

委 員： 今回の計画は、文化芸術施設であり全体が庭園でもあるので、緑のデザインに力を入れられており、このコンセプトを大事にしなければなりません、カフェ棟がこの緑の庭園分断し、庭園の魅力を阻害しています。カフェのバックヤードがある面は壁になりますので、庭園の中央にこのような建物を配置すると、その部分が壁で塞がれ、庭園が二つに分断されてしまいます。できるだけ敷地の端に寄せるべきだと思います。更に、カフェ棟は民間事業者を誘致するようですが、庭園の中央の一番良い場所にカフェ棟を配置した設計図を一度業者に見せてしまうと、民間事業者はこの場所が良いと固執すると思います。カフェ棟の位置は早めに修正した方が良いと思います。庭園の中で一番良い場所を民間事業者に渡しているのは、公園というコンセプトに合わないと思います。カフェのための庭園ではないので、カフェ棟の位置は再考した方が良いと思います。また、手塚治虫記念館から繋がっている連絡通路も同じです。これも庭園を分断していますので、無い方が良いと思いま

すので検討してください。

会 長： 連絡通路は雨の日は便利だと思いますが、その利便性より失う事の方が多いと思います。一体的な緑の庭園こそが魅力です。分断するものは設置しない方が良いでしょう。また、コストの関係で壁面緑化をやめるというお話もありましたが、壁面緑化をやめるなら、回廊を取りやめた方がコンセプトに合い、良いと思います。特に北面は道路の幅員も狭く豊かな街路樹もありませんので、壁面緑化で柔らかくしていただきたいです。壁面緑化をなくすならこの回廊を取りやめ、雨の日は傘をさしていただき、公園を邪魔するものを設置しない方が良いでしょう。

設計者： 検討します。

委 員： 配置図を見ると、一見敷地全体が公園として上手く一体化しているようにも見えますが、本当に大切なのは実際にこの場所に来た人がそう感じるのかどうかです。敷地の様々な場所の断面図で建物との関係性を再確認し、敷地内のそれぞれの部分から建物がどのように見えるのかをもう一度確認していただきたいと思います。今の計画では、庭園内に居る方からは建物の屋上の緑は見え、建物も含めた一体的な緑には見えないと思います。建物のボリュームが大きい事が原因の一つですので、少しでも高さを抑えることができれば地面との関係が良くなり、一体的な緑になると思います。また、庭園側に対して少し傾きを持ったような建物の造り方にすると、建物があっても緑が迫ってくる形になり良いと思います。

設計者： そうですね。

委 員： せっかくの機会ですから、もう少し検討してください。

設計者： わかりました。

委 員： カフェ棟は、民間事業者が外観や内装を決めることになるのですか。このような公共空間に収益重視の今風なカフェができるのは、少し違和感を感じます。デザイン面、運営面共に行政がある程度監修して頂きたいと思います。民間事業者は、ブランドコンセプトや運営方法にもよりますが、基本的には利益重視ですので、この場所にふさわしいこと、ふさわしくないことを精査し、指導していただきたいと思います。公園で営業されているカフェで、具

体的に参考にされている施設があるのですか。

設計者： この場所にカフェを設置する理由は、この施設により多くの人に訪れてもらえるような環境を整備したいという事が大きな狙いです。上野公園や富山県の環水公園などの公共の公園では、既に民間のカフェが営業されており、公園の雰囲気を壊さないよう配慮したうえで営業されています。我々も場所だけ民間事業者に渡し、誰でもいいから来てくださいというような考えではありません。事業者には、設計、建設までしていただく予定ですが、市の施設と調和していなければ何の意味もありませんので、具体的な手法は未定ですが、一定の設計条件を設定するなどし、協議や指導を交えたうえで調整しながら誘致を行う予定です。

委員： 品川にある原美術館の中には小さなカフェがありますが、利益重視という感じではなく、美術館に来た人が非常に心地よくくつろげる空間です。今回の計画は、公園がメインですので、カフェ棟を民間事業者が運営される場合、原美術館にあるカフェのような心地よい空間になるよう市が指導、監修をお願いします。

委員： カフェ棟として別の建物を設けるのではなく、文化芸術施設内にサービス部門を配置し、屋外のテラス席などを充実させた方が、公園、庭園という環境を重視した計画となって良いと思います。そのような可能性も含めて再度検討していただきたいと思います。高級感や都会的であることに固執しなくても、カフェとしての収益はある程度見込めると思います。飲食のサービスが必要なのであって、建物が必要だということではないと思います。公園そのものの利用率を考慮しても、オープンで色々な使える空間にしておき、オープンテラスのように整備する方が外部空間に馴染んで良いと思います。

事業者： カフェ棟は、100㎡にも満たない建物です。公共の公園の中に建物を建てることは、都市公園法の中で一定の制限がかかっていますので、あまり大きなものを建てることはできません。メインガーデンを見ながらゆっくりくつろいでいただけるカフェとして、民間事業者を誘致したいと考えています。ご意見をいただきました通り、壁で囲われた空間ではなく、自由に庭でくつろいでいただける庭と一体的に利用できるカフェにしたいと考えています。

委員： カフェは、できればメインの施設内に設ける方が良いと思いますが、別棟で建てるのであれば、庭園を分断するこの位置は良くないということです。

建てること自体が悪いのではなく、カフェを建てる位置が重要ですので再検討してください。厨房などのスペースはどうしても壁で囲われますので、外観をオープンにしても壁がなくなることはありません。公園の中央に壁ができ、公園を分断してしまうのが良くないということです。民間事業者と協議し、建物をどれだけ小さくしたとしても、壁をなくすことはできないので公園へのダメージが大きいです。再度検討をお願いします。

設計者： 公園の中にどのように建築物を建てるのかということと、この公園の中でどれだけ賑わいを創出できるかということが課題だと思います。庭園空間の中心に気軽にお茶が飲める空間を設けたいと思いますが、それがこの1ヘクタールの公園を阻害するようなものであってはならないということもわかります。ご意見を踏まえ、バックヤードをどれだけコンパクトにできるのか、庭園全体とどのように一体感、透明性を高めていくか引き続き検討したいと思います。

委員： まずは位置を考え直していただきたいですが、カフェ棟の長辺を東西方向にするなど向きを工夫するだけでも、今よりは庭園内の繋がりが残ると思います。

設計者： できるだけ既存の緑を残すため、敷地の南東にある緑の濃いエリアと敷地中央部の比較的緑が少ないエリアの境界に建物を配置し、特徴の異なる二つの庭園を建物で繋ぐという考えで計画しましたが、本日のご意見も踏まえ、配置については再検討したいと思います。

会長： 駐車場は他の物件でもそうですが景観上大きな問題になります。車両の動線を優先すると駐車場が道路沿いに配置され、敷地がそれほど広くない場合は道路との間に植栽スペースがとれないことが多いですが、デザイン協議部会では、これまでも道路から直接駐車場が見えないよう配慮をお願いしてきました。今回は市の事業ですので、見本となるような計画にしたいと思います。北側に建つ商業施設は、道路側に植栽帯もなく壁面が道路に迫っています。大型バスの駐車場もあり難しいとは思いますが、道路沿いに植栽帯を配置し、道路から駐車車両が直接見えないよう工夫してください。

設計者： 駐車場が交差点付近にあるので、車の動線を考えると条件は厳しいですが少しでも改善できるよう検討します。生け垣で車全てが隠れなくても、タイヤだけでも隠すことができれば、すごく変わりますので検討します。

委員： 最低でもタイヤが見えないように、できればボディーが見えないよう配慮をお願いします。これだけの敷地面積がありますので、今の計画では工夫が足りないように思います。

設計者： 安全面も考慮しながら調整したいと思います。

委員： 交差点付近ですので視距も注意する必要がありますが、デザイン協議部会では最低でもタイヤは隠していただくようの方にもお願いしていますので、よろしく願いいたします。

事業者： 既存の庭園をできるだけ残すことを重視して計画しましたので、結果的にこのような駐車場になっています。手塚治虫記念館への団体客向けのバスの駐車場が無いことが兼ねてからの課題でしたので、大型バス 3 台を止められるよう計画しています。安全管理を第一に考えたいと思っていますが、景観上の配慮が必要なことも理解しています。安全上問題がない事を確認したうえで、ご意見をできるだけ反映できるよう検討いたします。

会長： 安全性を優先させることは、どの駐車場でも同じことです。そのうえで、いかに道路景観に寄与するかという事が公共施設の大きな責任です。安全を優先することを理由に景観への配慮を安易に諦めるのではなく、安全且つ民間施設の手本になるような解決方法を示していただきたいと思います。また、普通車用の駐車スペースが南側にありますが、道路からの見え方についての配慮も必要ですが、公園側からの見え方にも配慮が必要です。桜のプロムナードから駐車車両が見えないよう配慮してください。桜のプロムナードより駐車場の地盤が高いのであれば、歩行者の視線がちょうどタイヤのあたりにくるように思いますのでよく検討してください。

委員： 駐車場の管理は管理会社に任せるのですか。

事業者： 時間貸しにする予定です。ゲートを設けるのは難しいと思いますので、車止めのタイプになると思います。

委員： 機器等の色彩も黄色ではなく景観に配慮した色彩とし、民間施設の手本になるような駐車場にしてください。

会 長： 市の施設が景観に配慮していないと、民間業者へも景観上の配慮を強く指導できません。看板、機器等の色彩も配慮をお願いします。

委 員： この建物は文化系の複合施設で様々な用途が入っていますが、上手くまとめられていると思います。しかし、このような場所に行くところどこにあるのか分かりにくいことが多いです。景観には直接関係ないかもしれませんが、行きたい場所にたどり着くのに遠回りするなど、経路が複雑で困ることが無いよう配慮をお願いします。

設計者： 建物内部のことですか。

委 員： そうです。特に今回の建物は、屋上へ上がりたいと思われる方も多いと思いますが、上下移動や水平移動が沢山あるのでとても分かりにくいと思います。例えば、図面をみれば屋上へ行くには外側のエレベーターを利用すれば最短で行けることがすぐに解りますが、実際にはそれが解りにくく、遠回りしてしまう方も出てくるのではないかと思います。目的地へ行くための経路をできるだけ解りやすく案内する配慮が必要だと思います。

設計者： 屋上庭園は多くの皆さんに積極的に利用していただきたいと思っています。そのためにも屋上庭園へのアプローチ案内は、当初から重要だと考えている部分です。例えば、手塚治虫記念館の辺りから計画地へ来られた方にも、建物の入り口は少々解りにくくても、屋上庭園へは真っ直ぐ行けば上がれるという解りやすさが重要だと考えています。他の部分も含め解り易い案内になるよう検討します。

委 員： 建物も庭園も様々な角度をもって構成されていますので、初めて訪れた方は建物の構成を頭の中で整理するのが難しいと思います。遠回りさせられることのないように、よく検討してください。
夜間はどのように管理されるのですか。

事業者： 屋上庭園は時間を決めて開放する予定ですので、基本的には夜間は施錠し、上がれないようにします。メインガーデンは中木高木の樹木が多くあり見通しが悪いので、夜間は安全管理上解放しておくのは難しいと考えています。この部分はエリア分けし、夜間は閉鎖したいと考えており、それ以外の広場や桜のプロムナードの東側、花の道桜橋公園に抜ける通路は、いつでも自由に通行できるよう開放する予定です。

委員： エリア分けをして夜間は閉鎖される部分があるということは、敷地内のどこかにフェンスなどが設置されるということですか。

事業者： 夜間閉鎖するエリアの周囲には何らかの柵ができることにはなりますが、壁にすることや、すごく高いものにすることは考えていません。少なくとも開放時間にメインガーデンの視認性が阻害されるようなものにはならないようにしたいと思っています。

委員： 敷地内に設置するフェンスは、この庭園で景観上とても重要です。視認できるものでも素敵な柵もありますので、そちらも検討してください。

会長： フェンスの意匠や高さは重要です。クローズとオープンの関係は、クローズだから安全という考えは幻想のようにも思います。人の目がある方がやはり安全だと思います。どの範囲を閉鎖し、どの範囲を常時間開放するのかについては慎重に考えてください。

事業者： メインガーデンの観賞用の庭園としての緑のボリュームと、安全管理上の問題をどう両立させるかが重要になると思います。慎重に考えたいと思います。

委員： フェンスは、見えないもの邪魔にならないものにこだわらなくても、堂々と見せられる塀というのも良いと思います。建物との調和も考慮したうえで、デザイン重視の塀にするという考え方もあると思います。

委員： 公園ですので、通り抜けできるということと、視界が良いということはとても大事なことです。閉鎖されると余計に危なく感じます。通り抜けできるようにした場合は、見通しの確保と緑のボリュームをどのように工夫し、調整するかが重要です。通り抜けできる部分はライティングデザインも重要になります。ライティングも今回一緒に計画されるのですか。

設計者： 今回の実施設計でライティング含めて計画します。

委員： 通り抜けられる部分と閉鎖する部分、見せる部分と見せない部分の関係も含めて、全てライティングのデザインに掛かってくると思いますので、専門のライティングデザイナーの意見聞きながら計画してください。

会 長： 建物の周囲には、アルミ製の縦格子の手摺りが設置されるのですか。

設計者： スロープ部分、屋上部分には手摺りを設置します。見るからに目立つようなもの、無骨なものにならないように配慮したいと思っています。

委 員： パースでは手摺りが目立っています。縦子のデザインは良いと思いますが、目立たないよう上手にデザインしていただきたいと思います。

会 長： 手摺りはスロープのデッキや屋上の先端に設置するのですか。

設計者： デッキ部分では先端に設置します。屋上では先端に設置すると建物のデザインを邪魔してしまいますので、先端から少し控えた位置で緑に隠れるように設置したいと考えています。

委 員： 庭園内から建物内部を見た時に、建物の天井高さが高いので屋上庭園よりも屋内のインテリアの方が目に入ってくると思います。パースでは一般的なインテリアが描かれていますが、もう少しこの施設に見合う木質系などのインテリアの方が良いのではないですか。外部の自然環境とコントラストをつけるよりも、同調するようなインテリアの方が合うように思いますので、もう少し工夫された方が良いと思います。

設計者： 素材感、形態でアクセントをつけるという考えもありますが、今回の計画では庭園と建物を一体的に魅せたいという思いがあります。ここに集う市民の皆さんの活動を一番の主役にしたいと考えています。文化芸術施設の内部は、1階はギャラリーを配置し作品を展示するスペースにしていますので、建物自身の色や素材が主張しないよう配慮し、建物を利用される皆さんが主役になれるデザインを目指しています。

委 員： 庭園部分のデザインのテイストと繋がりが感じられないので、庭園と切り離されたイメージを受けます。

設計者： 内外の一体感が感じられるようにしたいと考えています。

委 員： 東屋のようなものは設けないのですか。

設計者： 東屋を設けるのではなく、その代わりになるようなものとしてカフェや連絡通路を利用します。また、既存樹木をできるだけ残し、各緑地の周囲に人が腰かけられるようなスペースを設ける予定です。

委員： 座ってくつろげるスペースが少ないように感じます。

設計者： 図面では解りにくいかもしれませんが、座っていただきたいという思いで設計しており、各所にベンチも設けています。

委員： お弁当を持って来て、ここで食べたいという市民の方もたくさんいらっしゃると思います。そのような庭園の使われ方を考えると、カフェへは持ち込みできないと思いますので、ゆっくり座ってくるくつろげるスペースが必要だと思います。

委員： この庭園は主にどのような方が使うのか、どのように使われるのかを考え、ランチボックスを買ってここで食べる、お弁当を持って来てここで食べるという方へもっと配慮し、市民に寄り添った施設にする必要があると思います。

事業者： ガーデンフィールズ時代も、有料の庭園部分よりもベンチなどが置いてあるフリースペースで休憩したり散歩されたりする方が多く、一番利用されていたようです。今回目指しているのも、普段使いできる公園です。週末のイベントの時だけ人が集まる場所ではなく、普段からゆったりと散歩したり、のんびり休憩してもらえるスペースにしたいと思っていますので、座れる場所はできるだけたくさん設ける予定です。

委員： ゆっくりと座れるくつろげるスペースがたくさんあると、この施設の活用度も上がると思います。是非そのようにしてください。

委員： いのちの広場や、みんなの広場などの子供が走り回れるようなスペースの周囲にも、付添いのお母さん方のために、座れる場所の確保をお願いします。

設計者： 親水池の横や島状の植栽の周囲は、座れるようベンチ状に整備し、若い世代にカジュアルに利用してもらえるよう計画しています。また、これらを木陰になる場所を選んで配置し、その他にも庭園の中には、ベンチ自体が添景物として絵になるようなものも配置し、お弁当を食べられるようなテーブルと椅子もあるなど多様性を考慮した計画としています。次回お示しする図面

では、これらについても解るよう表現させていただきます。

委員： 緑に囲まれ、風も感じられる空間を整備していただきたいと思います。

会長： ペープメントの「土舗装-1」は、真砂土のグラウンドですか。埃などの苦情がでないか少し心配です。

設計者： 硬化剤を使い砂が風で飛散しないよう固めますが土の広場です。この広場の使い勝手をよりカジュアルにし、杭を打ったり、穴を開けたりしても簡単に補修でき、用途に捕らわれず自由に使える空間も必要だと考え土舗装にしています。また、子供が転んでも大きな怪我をしないということも考慮し、土舗装としています。

委員： 花のみちからこの庭園までの連続性と、庭園内の桜のプロムナードまでの繋がり、庭園を抜け、花のみち・さくら橋公園やその先への連続性まで考慮し、人の流れを意識した計画にしていきたいと思います。庭園内の舗装が細かく切り替えられ、様々な舗装を取り入れられていますが、自然な人の流れや、人を誘導するような舗装仕上げを検討してください。敷地外の歩道も含めた計画が必要になりますが、まずはこの庭園内でモデルになるような舗装を考え、その後、歩道の装仕上げなども順次合わせて行くことができれば、連続性が生まれ素晴らしと思います。

委員： 高齢者や車いすを利用されている方などは、舗装が変わるたびに段差があり、非常に通行しづらいと思います。あまり舗装が切替わらない方が歩きやすいと思います。

設計者： 舗装の切り替えにはそれぞれ理由があり、エントランス広場は手塚治虫記念館との一体感を意識した仕上げとし、桜のプロムナード部分は、懐かしさ、歴史を感じられるよう既存の舗装を活かした仕上げとしています。ご意見いただきました通り、中央部分はサクラは繋がるようポツポツ配置していますが舗装が連続していない状況になっていますので、検討します。

委員： 花のみちからの連続性を考慮し、敷地内でも一本筋を通した方が良いと思います。

設計者： 現状、舗装繋がっていない部分は、建築物の庇があり回廊のようになって

いる部分です。建築物の床が外に延びてきているようなイメージで内外の一体感を意識して、このような仕上げとしています。今後、管理動線等も考えていく中で、ご意見や花のみちとの繋がりも考慮した計画を検討します。

委員： 舗装仕上げが切替わるのであれば、何か他に連続するものが必要だと思いますので、それも含めて検討願います。

委員： 桜のエントランスから、屋上へ上がるスロープの場所は解りやすいですが、庭園側へ降りるスロープはどこを利用するのですか。

設計者： 一旦道路沿いを北側へ回り込んで、おおやね広場を通り庭園側へ降りることになります。

委員： その辺りの動線が、利用者にはとても解りにくいと思います。サインをたくさんつけると見苦しくなりますので、これをどのように解決するのか、物言わずとも間違わずに目的の場所へ行けるよう、よく検討してください。

委員： みんなの広場は芝生なので、この辺りで地面に座って休憩される方が多いと思います。他の部分は、インターロッキングや土で直接地面に座れないので、芝生の部分がもう少し広くても良いように思います。

委員： あまり広い芝生空間ですと、落ち着かないので逆に利用されないようにも思います。狭い空間の方が落ち着くので、小さめの芝生をいくつか配置した方が、利用率が上がるように思います。広すぎると逆に座っていいのかなという心理になりませんか。

委員： そうかもしれません。座れるスペースは、水辺の周囲にもあった方が良いでしょう。暑い季節には、木陰で座れるスペースが必要です。みんなの広場、親水池の周辺、桜のプロムナードの周辺には、木陰で座れるスペースを充実させ、いのちの広場やキッズゾーンは子供が自由に走りまわれるスペースとして整備されると良いと思います。

委員： 子供が遊ぶ場所には必ず親がついているので、親がゆっくり待機できるスペースをいくらか設けてあげてください。人が溜まる場所は、木陰と囲いが少しあると落ち着きますので配慮をお願いします。

設計者： わかりました。

委員： メインガーデンは、既存樹木を保存、利活用した立派な庭園になると思います。人がゆっくりと憩えるような工夫と配慮をお願いいたします。

設計者： わかりました。

会長： 本日は植栽関係が専門の委員が欠席しております。事前に意見をいただいています。本日既に議論された意見もありますし、それ以外の意見も頂いています。重複する内容もありますが、お伝えします。

【建物計画について】

① [資料 P. 09] 立面図

建物の北立面は、壁面緑化がなくなるとセメント板のルーバーが続く単調な壁面になってしまうのが気になる。セメントルーバーを分節化する、道路沿いには樹木をできるだけ多く植えることを検討して欲しい。また、「北側ゲート」の部分は、写真 (P. 09) のように緑化するのか。全ての壁面緑化をなくすのか。当初計画の様に上から下までの壁面緑化は、施設費用がそれなりに必要だが、部分的に上からツル性のものを垂らす方法であれば、費用的にはそれほどかからないので、壁面緑化の手法についても検討して欲しい。

② [資料 p. 23, 24] 鳥瞰図

屋上菜園部分が室外機置場となった場合、周囲からはどのように見えるのか。一般的な目隠しルーバーをいきなり立ち上げると目に付くと思う。屋根の形状を活かした曲線のデザインのルーバーや生垣で目隠しを検討して欲しい。

【駐車スペースについて】 [資料 p. 18] 植栽計画図 (1F)

③ 駐車場周囲に植栽がなく、駐車車両が見えてしまう。北側道路沿いは、景観計画特定地区としてサクラ、カツラを推奨しているが、常緑樹ではないので、駐車車両を隠すという意味では、シマトネリコなどの常緑の高木をお勧めする。メタセコイヤなども良いと思う。

道路沿いに高木が植えられる植栽スペースを確保するのが難しい場合は、アイレベルで駐車車両を隠すように常緑のものを植えて欲しい。

④ 「桜のプロムナード」と駐車スペースの間に高低差があり法面で仕上げられているようだが、駐車車両が公園の敷地内からも見えないよう配慮する必要がある。駐車スペース南側に、生垣などをして、車が見えないよう配

慮すること。

【南及び東側道路からのアプローチについて】

⑤ [資料 P. 18] 植栽計画図(1F)

メインガーデンは、南及び東道路と高低差があり、直接寄り付くことは難しいのであれば、無理にアプローチを整備するよりは、落ち着いて楽しめる庭として整備し、ファミリーランド時代からある雰囲気を活かし、昔を懐かしむ空間、ゆっくりとできる空間として整備すれば、道路からのアクセスが必ずしも必要だとは思わない。

⑥ [資料 P. 04] 写真⑪⑮

南側道路、東側道路と敷地とは高低差が大きいので、下に何があるのか、視線の抜けを設け、売店の建物が少し見えた方が、行ってみたいという気持ちになると思う。東側道路沿いの既存の塀については、少し高く圧迫感を感じるので、売店棟より北側は塀をなくすか、低くするなどして、隠すところ、見せるところを精査した方が良いと思う。

⑦ [資料 P. 04] 写真⑯

南側道路の歩行者からの視線にも配慮し、水路より南側の部分の樹木は、高木は残すが、下の方は枝をすっきりとさせ、雑草も抑えられるよう工夫し、視線が抜けるよう整備した方が良いと思う。道路として管理されるようなので、できるだけ手入れが簡単なもの、低めのツル性のものを植えると良いと思う。

【庭園部分について】

⑧ [資料 P. 15、16] 植栽計画-1、-2

庭園内の各ゾーンの植栽計画のコンセプトはとても良いと思う。予算がなくても、コンセプトがブレないようお願いしたい。

⑨ [資料 P. 15] 植栽計画-1

「せせらぎと親水池」付近は日本のイメージを取り入れられるようなので、外来種ではなく在来の野草を植えて、もっと和風に仕上げると良いと思う。

⑩ [資料 P. 18] 植栽計画図(1F)

カフェ棟は民間事業者の設計となった場合でも、図面に記載された規模とし、テラス席や、ウッドデッキをこれ以上大きくして親水池周囲の既存樹を伐採することがないよう配慮すること。

⑪ 資料[P. 19] 植生調査-1

移植する樹木について、珍しい植物も多くあるようなので、予算的に厳しいとは思いますが、早めに移植の下準備をして欲しいと思う。

⑫ [資料 P. 22] 舗装計画平面図、[資料 P. 23, 24] 鳥瞰図

舗装仕上げについて、「土舗装 1」はどのような仕上げなのか。真砂土で仕

上げるのか。特に使用用途や目的が決まっていなければ、他の仕上げを考えた方が良いと思う。真砂土だと、砂の流出や、砂埃などもあり、雨上がりには使用できないことになる。土の公園はたくさんあるし、隣の花の道・さくら橋公園も土である。どうしてもここが土でなければならない理由があれば良いが、そうでないのであれば、一般的な土舗装ではなく、もっと特別感を感じられるような仕上げを考えた方が良いと思う。

会 長： 本日の意見を反映させた計画を再度会議で確認させていただきたいと思
います。議事1については、これで協議を終了します。